

笹川メッキ 株式会社

DX宣言書

2025年1月31日
笹川メッキ 株式会社
代表取締役 大桃 正隆

□ 経営理念

すべてのお客様から選ばれるパートナーであり続けます。
お客様と共に満足してもらえ表面処理を通して地域社会に貢献します。

□ DXビジョン(2～3年後にありたい姿)

- ◆ 業務フローの可視化やデータの分析等を通じて、全社員が一丸となって業務効率化を進めます
- ◆ 新しいデジタル技術を活用し、データに基づいた迅速な意思決定を行う体制を構築します

□ DX戦略・施策

➤ フェーズ1(現在 ～ 2025年12月)

戦略 「組織全体の業務効率化の推進」

- 施策
- ・ DX推進チームを発足し、業務フローの可視化・整理を行い、課題を特定
 - ・ 各部門が抱えている問題や意見を幅広く収集するため、アンケートを実施
 - ・ 特定した課題にアンケート結果を反映させ、解決に向けたDX実行計画を策定・実行
 - ・ 属人化作業を解消するため、可視化した業務フローを基に作業工程の標準化等、具体的な改善案を検討・実行
 - ・ DX推進チームが中心となり、全社的にDXを推進するためのワークショップ等を実施

➤ フェーズ2(2026年1月 ～ 2026年12月)

戦略 「業務品質の向上に向けた取り組み」

- 施策
- ・ 生産・顧客管理体制を整えるため、現場や事務部が持つ情報を可視化・一元管理し、リアルタイムでアクセスできるシステムを構築
 - ・ 導入するシステムを現場で活用するため、実務に即した演習を実施
 - ・ 社内の不良品に関する判断基準を定義し、品質管理マニュアルを作成
 - ・ 更なる品質向上のため、不良品データの収集・要因分析を行い、対策を立案・実行
 - ・ タブレットを業務全般に活用するため、品質管理マニュアルの閲覧や不良品情報の入力等、具体的な利用案を検討・実施

➤ フェーズ3(2027年1月 ～ 2027年12月)

戦略 「更なる業務効率化と人材育成の推進」

- 施策
- ・ DX推進により創出した余剰時間を活用して、社員の資格取得の推進等スキルアップ制度を導入
 - ・ AIを活用して、在庫・生産状況から需要予測を行い、必要な材料の発注等を算出する仕組みを構築
 - ・ 定型的な事務作業(データ入力、経費精算等)をRPA等で自動化する方法を検討

□ DX推進体制

- ・ 代表取締役をDX推進における実務執行統括責任者とし、
- ・ DX推進チームがDX戦略実行の中心的役割を担います

□ DX推進目標

- | | |
|------------------|----------------------------|
| ・ DX実行計画の策定・実行完了 | ： ～2025年12月 |
| ・ 製品の不良発生件数 | ： 2024年度比 20%削減(～2027年12月) |
| ・ 顧客満足度の向上 | ： 20%増加(～2027年12月) |